

令和8年度一般選抜（A日程）における小論文出題意図

国際経済学部

1. 小論文問題作成の基本的な考え方について

アドミッション・ポリシーに掲げるように、国際経済学部では、大学入学までに身に付けておくことが望ましい知識・能力・態度として、高等学校における学力の三要素、すなわち「知識・技能」「思考力、判断力、表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関して学力評価を行うこととしている。

小論文試験は、このうち主に「思考力、判断力、表現力」について、経済社会のさまざまな動きや変化に対する探究心を有し、自らの考えを論理的に表現し、わかりやすく伝える力を評価することを目的としている。

2. 試験問題の内容および意図について

（内容）

本試験は、生産効率の代表的指標である「労働生産性」をテーマに、出題文や与えられた資料やデータを注意深く読みながら、総合的に考察し、それを論理的に表現する力を小論文形式で問うている。資料は、猪木武徳著「増補 学校と工場：二十世紀日本の人的資源」を一部改変して出題した。また、日本生産本部の「労働生産性の国際比較 2024」および OECD Productivity Database から日米の労働生産性のデータを用いた。

（意図）

- 問1 資料から、労働者の能力（スキル）の形成における、学校教育、職場での教育訓練それぞれの役割と相互関係についての筆者の主張を読み取り、手際よくまとめる力を問うている。
- 問2 与えられたデータを読みとり、日本の労働生産性の特徴を複数の切り口から整理して抽出する力を問うている。
- 問3 自分の考えを論述する出題だが、単に意見を述べるのではなく、出題文や与えられた資料から得られた情報、さらには前問までの考察を活かしながら、論旨を総合的に組み立てているかを重視している。文章やデータなど複数の資料を使って考察し、筋道を立てて表現する力を見ている。